

目指す学校像（ミッション）		深い理解を伴う知識学習を基本とした、心豊かな創造力・発信力をもった国際社会に貢献できるリーダーの育成						
本年度の重点目標		1. 基礎的・基本的な内容の十分な理解を基盤とした探究的な学びを深め、多様性や関係性を重視する協働的な学びを目指す 2. 発達段階に応じた学習集団で学び合い、学びの質の向上を図るとともに主体的で深い学びを実現する 3. 一人一人の問いをより広く深く展開できるテーマや題材を設定し異学年活動の質を高める 4. ICTを活用して教育活動を充実させるとともに、保護者の求める情報をタイムリーにわかりやすく発信する						
評価項目		年度当初		中間評価（10月）		最終評価（3月）		学校関係者評価（令和6年5月） （保護者代表6名・学校代表3名）
		現状と課題	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題	
1	よりよい授業を目指す授業開発の取組み 授業改善	【P】 基礎的・基本的な内容の定着度の個人差が依然として顕現化している。引き続き学力の底上げにかかる方策を講じていく必要がある。 【S】 ICTの活用が図られ、授業改善に努めてきたが、児童生徒の自発的な学びに結び付いていない。発展的な学び、協働型の授業をより推進し児童生徒の学習モチベーションを高めていく必要がある。	【P】 アプリを活用した繰り返し学習を家庭学習に取り入れ、授業では協働的な学びを積極的に行い対話的で深い学びを実現する。 【S】 授業での教員からの問いの工夫や学び合いなど促進によって児童生徒の自発的な学びに結びつけていく。家庭学習の確立、定着にも力を入れ基礎基本の学力もしっかり獲得させる。	【P】 昼の学習や家庭学習を繰り返し行い基礎基本の定着を図っている。授業では協働的な学びの場を多く取り入れようと目指しているがまだどの教科も足りていない。 【S】 プロジェクターやアプリ等を用いて双方向な授業を展開する姿が増えてきているが、更なる発展的な学びや協働型の学習の光景が見られる教室はまだ一部にとどまっている様子がある。	【P】 アプリやプリント等で毎日家庭学習に取り組みせ基礎的・基本的な内容の定着を図り家庭での繰り返し学習も定着した。協働的な学びにおいては多様な他者とともに問題の発見や解決に臨む授業展開の視点から授業改善に繋げることができた。 【S】 ICT機器を活用しながら、必要に応じた講義型授業や子ども自身が考え、意見を周りと共有し、発表し合う探究型授業も随所に見られるようになってきた。	【P】 B 【S】 B	【P】 基礎的・基本的な内容の定着度を高めるため、新しい副教材を活用するなどして、家庭での学習習慣を向上するとともに、探究的な学びを日常授業の中でより具体化する必要がある。 【S】 児童生徒一人一人の目標を明確化し、できるだけ短いスパンで適切に評価する中で、自発的な学習につなげていくことが必要である。授業においてはICTの活用を促進するとともに、協働的な学習をより推進する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用や先生方の工夫による魅力的な授業の展開、家庭学習での復習の徹底による知識定着を両輪として、子供達の学力の向上を促し、進学校としての実績向上に期待している。 ・教育アプリにより効率的に学習できるようになったが、どちらかという受動的で、自身で字を書き考えまとめる機会が減ってきていると感じている。
2	学年を軸に児童・生徒が主体的に活動する学校生活・学校行事の実現 主体的な活動	【P】 テーマ設定をする際の引き出しを多く持たせたい。選択肢から自己決定していく段階から、創造的なテーマ設定へと、個に応じた自己決定の機会をえられるよう、プロセスを大切にしたい。 【S】 教科学習における探究的な学びを保証するため、教材（学習材）の精査と、時間の確保の両面から取り組むことが必要である。	【P】 他者と協力して課題を解決しようとする学習活動や言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を積極的に取り入れる。 【S】 学年の探究活動ではテーマ設定の工夫、また探究的活動のあり方の再確認を促す場面作りにも力を入れていく。	【P】 各学年、探究テーマを設定し生活科や総合、FWを通して計画的に協働学習を行うことで主体的に学ぶ力が育ってきている。 【S】 今年度は7時間授業に時間割を組み替えた関係で探究の時間を時間割に反映させることができた。時間確保によって、今年度の探究の導入やテーマ設定を各学年で確実に行った。	【P】 1・2年生は体験活動を通して課題意識を持って取り組むことができた。3・4年生は自らの探究テーマを設定し主体的に学習を行うことで好奇心や探究心が育っている。 【S】 児童生徒会を中心とした委員会活動や運動会、開智発表などの行事においても例年のように児童生徒の主体的な活動が様々な場面で見られた。	【P】 A 【S】 A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事にかかる時間が年々少なくなってきたように感じる。行事中で生まれる責任感や連帯感、主体性は、今後の人生にとっても大切な力になるため、通常授業とバランスをとりつつ更なる充実を期待したい。 ・宿泊行事も通常の形ででき、体験を通して成長している子供の姿を頼もしく感じている。 	
3	異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 Teamの充実	【P】 協働的な学びの場として、良い体験ができています。チームでの探究活動については、チーム担任二人がより連携して、それぞれの個性を生かした活動にしていきたい。 【S】 リーダーたる8年生がチームをよく導いており、チームカラーがよい形で諸活動に反映している。他チームにない個性が発揮されることで、それぞれのチーム力が高まっていくものと考えたい。	【P】 多様な他者と協働探究を実践的に取り組みながら、Teamの所属感や連帯感を深める。 【S】 Teamリーダーの自主性を育み、Sプロジェクトや運動会などの諸活動を通して、Teamの団結力を高めていく。	【P】 Teamの探究テーマを軸に能動的に学び合うことで異学年齢集団が育っている。引き続き計画的に探究を進めながら個の成長にも繋げていきたい。 【S】 4月の新しい行事のSプロジェクトや10月の運動会では8年生がリーダーシップを十分に発揮してTeamをまとめる姿が見られた。委員会や表現などの日常での活動にも異学年の役割が機能している姿が随所に見られる。	【P】 異学年で協働して学び合う学習活動の過程を繰り返すことでコミュニケーション能力や児童の探究活動の習熟が高まりTeam集団も育っている。 【S】 日常の生活だけでなく、Team委員会や表現(演劇)などの活動も通して異学年の役割が機能している姿が多く場面で見られた。	【P】 A 【S】 A	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢のTeam運営は、開智に深く浸透しており、児童生徒にとって人との接し方や責任感を芽生えさせる良い機会になっている。 ・保護者の観点からも、下級生は上級生に面倒を見てもらえる安心感がある。また、上級生のリーダーシップを育む場として有効に機能していると思う。 ・コロナ禍も明けたので、プライマリーとセカンダリーの交流を再開し、総合部全体の一体感が得られるような取り組みを期待している。 	
4	教育環境の充実と保護者や入学希望者への情報の充実 教育活動の充実	【PS】 効果的なICTの活用場面、機会を個々の教員が持ち寄り、総合部型学習として確立していきたい。基本のコンセプトである、体験的な学習は行事を優先するのではなく、日常の授業の中で具体化したい。	【PS】 数年前より一段と整備されたICT環境のもとで総合部全学年ICTを活用した授業や活動をより積極的に展開していく。ツールを有効活用して保護者との情報共有を一層図る。引き続き、HPや動画コンテンツ等で広報活動の充実を図る。	【PS】 全教室がホワイトボードになり、全ての授業教室にプロジェクターが設置された環境の中で、ICTツールを利用して授業が展開されている。スマイルネクストやRaz-kids、モノグサなどの学習アプリの使用も継続されている。	【PS】 設置されていなかったPSのサブ教室にプロジェクターを設置することができた。総合ホールに大型電動化スクリーンを設置できたことで学年の授業や行事等で児童・生徒の学習活動の場が広がった。今年度もHPやSNSなどの情報発信ツールの有効活用を通して幅広い広報活動に繋げることができた。	【PS】 A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの保護者への情報提供が以前と比べ活発となり、情報の格差がなくなってきた。しかし、情報提供ツールが複数になり、見落とし状況も生まれてきているので整備も必要と感じてる。 ・ICT教育環境が充実してきている一方で、学校環境美化の悪化を懸念している。特に校庭や校舎周辺の木々のメンテナンスが著しく行き届いておらず、開智のブランディングにも悪影響を及ぼす可能性があると感じる。児童生徒の心身にも影響を及ぼすため、適切な整備をお願いしたい。 	

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満） ◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）